

捶見物雜人群集 十八日三球杖少々燒之於門前大三球杖燒之

〔二水記〕大永八年正月十五日入夜參内御盃儀如恒於東庭小三毬打拍也 十八日入夜參外様番衆所三毬打令見物聖門師拍之如恒

〔言繼卿記〕天文十一年正月十五日丙申暮に御祝ニ參内略中於東庭御三毬打例式仕丁共ハヤシ候勸修寺三本予十本進上已上十三本有之極薦藤原氏直祇候申沙汰也次於大所勸廣予薄五辻等一盞候 十八日己亥今日禁裏進上之三毬打用意於禁中如例年沙汰之大澤長門守同下野權守同彦四郎澤路筑前守同彦九郎同修理進井上次郎五郎安彌四郎小谷彌五郎與次郎澤路夫三人人夫二人沙汰之於禁中極薦夫々渡之當年一圓數少至賀茂以上廿本有之暮に參内見物被參輩廣橋中納言權中納言萬里小路中納言伯二位予四辻宰相中將重保朝臣國光藤原氏直源爲仲等也極薦氏直申沙汰也於男末一盞如例年御警固藤中納言庭田兩奉行夫參見物候輩以外多

〔晴右記〕永祿十三年正月十五日三毬打三本如嘉例進上申也

〔言經卿記〕慶長九年正月十二日癸亥山科七郷ヨリ三毬打竹二百八十本持來了勸修寺ヨリ人相副 十四日乙丑禁中へ三毬打十本如例年進上了如左

かしこまりて申入候三ぎつちやう十ほんあいかはらずえん上いたし申候御心候て御ひろうにあづかり候べく候かしく

とき經

勾當内侍どの、御局へ

御返事有之

いつもの三ぎつちやうまいり候めでたくおぼしめし候よし心候て申とて候かしく

山しな前中納言どのへ